



期日	令和5年8月21日（月）	時間	19:00～20:00	場所	磯部コミュニティセンター
参加者	磯部地区／5人 …地区区長会、まちづくり協議会役員、PTA				
	坂井市／8人 …市長、副市長、教育長、総務部長、総合政策部長、建設部長、生活環境部長				

参加者からの意見・提案等

Q. 大学生は、意外と地域に目を向けています。例えば、地域の中で朝市をしたいとか、他大学との交流を通して、県外からの居住者と元々住んでいる人たちとの交流を創出したい、などの思いがあるようなので、学生たちがそうした活動を自由にできる場所を提供してほしいです。

Q. 連日の猛暑で、せっかくの夏休みも、暑さの心配からPTA活動を縮小せざるを得ません。PTAとして、暑さや危険から子どもを守りながら、1つでも多く地域活動や交流などを経験させたいので、熱中症に関する知識や対処方を、PTAや保護者をはじめ地域の大人が一堂に学べる場を設けていただけませんか。

Q. ごみの正しい分別や捨て方に対する住民理解や、その啓発は必要だと思います。拠点回収やステーション回収など、地区によってごみ収集方法が異なりますが、「選択方式」という形で選択肢を設けつつ、市全体を統一してはいかがでしょうか。

Q. 国主導でひきこもりに関する調査が始まります。周囲との関わりを閉ざしてしまいった人への支援は簡単ではないと思いますが、市ではどう捉えていますか。

Q. スクールバスの横をスピードを上げて追い抜いていく車が、相変わらず多いです。目を引くような路面標示など、運転者向けの注意喚起をお願いしたいです。

市からの返答

A. 地域の居場所づくりは、住民の幸せを高める上でとても大きな要素です。今年度、坂井町河和田地区で、改修した空き家に学生が住んで地域の人と一緒に活動するという試みを実施しています。磯部地区においても、地域として取り組んでいただけるのなら、市では学生をつなげることができます。

A. 異常ともいえるこの暑さは、今年に限らずこれからも続くことが想定されます。子どもたちの熱中症についてどう対策すべきなのか、県内はもとより全国自治体の取り組みを調べた上で、坂井市としてできることを実施します。日常生活はもちろん農林水産業などあらゆる分野で熱中症対策が必要なので、可能な限り取り組んでいきます。

A. 少子高齢化、ライフスタイルや価値観の多様化など、日常生活をとりまく環境が変わる中で、選択方式や、高齢者のごみ出し支援策などの導入の可能性を模索しながら、本市の実情にあった回収方法を検討していくことが必要だと考えています。

A. ひきこもりの背景が複雑・多様な中で、個々に適した支援は非常に難しいという認識です。まずは、周囲の人も含めて広く相談窓口の存在を知ってもらうことを推進します。今回の調査により実態を把握し、民間事業所と弾力的な連携ができる道筋につながればと思います。

A. 通学路の安全確保はとても大事です。路面標示について、県外では「止まれ」ではなく「あ！」と書いてあるユニークな事例もあるので、警察とも十分に情報交換しながら、運転者の意識向上に向けた工夫を行っていきます。